

～マイコプラズマ～

平松 秀一

「マイコプラズマ」とは何か知っていますか？

実は私も知らなかったのですが、この電子集積回路のようなネーミングの正体は病名なのです。

昨年末、咳と痰が異常に出るので、近所の病院で診てもらったところ「風邪の初期でしょう」ということでした。

吸入と薬をもらって帰ったのですが、気になって2日後、札幌の呼吸器内科で診てもらおうと「最近、急激に流行っている肺炎系の風邪の疑いがあるので検査しましょう」と言われ、胸のレントゲン撮影と血液検査を受けることになりました。

翌日、医院から電話があり「マイコプラズマだったので直ぐ来院されたし」と……。医師からは、病気の説明とともに投薬と感染予防の注意指示がありました。

ネット検索をすると：

マイコプラズマ (mycoplasma) 細菌に似た病原体だが、細菌特有の細胞膜は持っていない。呼吸器に感染して非定形性肺炎を起こす。感染力は強くうつりやすい。治療が遅れると重症化することもある。

私の理解力では良く分からないのですが、今回の経験で言うと、通常の肺炎よりは軽く発熱はありません。しかし、痰がなかなか治まらず、軽くなっても未だに続きます。うつりやすいのは確かで、妻も2～3日後に受診すると感染していました。それでも、発見が早かったので痰咳も軽くすでに治まっています。

マイコプラズマ肺炎治療は、抗生物質の投与約7日間で治まりました。私の場合は発症後、治療に入るのが遅かったためか痰がでる後遺症が続いています。発見が早く、早期治療にあたった妻は後遺症がありませんでした。

今回の経験で、内科にかかる時は呼吸器科なのか循環器科なのか、あるいは消化器科なのかくらいは選んで受診すること。そして、何よりも早い受診の必要性を痛感しました。

痰が絡み咳が長く出ている方は、ぜひ、いますぐ受診をお勧めします。